



# 海外の浄土真宗事情

## 第15回 本派本願寺ハワイ別院(ハワイ開教区) HONPA HONGWANJI HAWAII BETSUIN

日本からの観光客は年間二百万人を超えませんが、ハワイに本願寺があることを多くの方が知らないというのが現状です。ハワイ別院は、そのハワイ州の州都



ハワイ別院外観

であるオアフ島ホノルルに位置しているハワイ開教区の本派寺院のなかで最大規模の寺院です。

このハワイに本願寺の開教が始まったのは、官約移民(一八八五年)が始まってからです。ハワイ別院は、その始まりがハワイ開教区最初の伝道拠点であるホノルル布教所であり、布教所が別院に昇格してからも輪番職は開教総長が務めるなど、長く開教の中心拠点として機能してきました。そのためその沿革は、昨年度宗報誌面にて紹介されたハワイ開教区のそれと多くを共有するものです。

一八八九(明治二十二年、大分県出身の曙日蒼龍師が当時のご門主・第二十一代明如宗主の激励をうけてハワイに來られ、仮布教所を開いて他島にも布教されました。そして、一九〇



## 情報コーナー



今村恵猛師胸像

○（明治三十三年、福井県出身の当時三十二歳であった今村恵猛師が現在の開教総長に当たる「監督」に就任し、在任三十二年の間に日本語学校を設立、婦人会や仏教青年会を組織されます。さらに一九〇六（明治三十九）年にはホルブル布教所が別院に昇格となり、一九一八（大正七）年、ガンダーラ様式の現ハワイ別院本堂落成に至るのです。その間

に、師は本格的に英語伝道に尽力されて一九二二（大正十）年には、ハント氏をはじめとして白人の数名が婦敬式ききょうしきを受けるに至ります。その後は、現在のハワイ最大の仏教教団を作り上げられるのです。故に今村開教総長は「ハワイの中興の祖」と呼ばれて今でも慕したわれています。そして、ハワイ別院の最盛期には、護持会員約二二〇〇家族、婦人会々員八五〇人、日曜学校生徒五八〇名を数えるに至るのです。

こうしたなかにあつて、二度教団並びに別院の存続の危機がありました。一度目は一九二〇年代にハワイ全島で起こった砂糖プランテーション耕地でのストライキです。労働者が労働条件の改善を求めたもので、プランテーション会社との交渉に今村開教総長が尽力、調整され労使合意に至りました。二度目は太平洋戦争です。真珠湾攻撃のため、戦争の間お寺は閉鎖され、開教使は米本土に強制収容され、お寺の活動は



ハワイ別院起工式

禁止となりました。その間お寺は篤信とくしんの信徒で護持されたのでした。

戦後になり、一九四九（昭和二十四）年、米国内初の仏教系英語小学校、別院附属のミッションスクールが開校し、一九六四（昭和三十九）年にはアネックス新会館が落成となります。一九七五（昭

## 海外の浄土真宗事情

和五十)年、輪番職が総長職から分けられ、ハワイ別院はハワイ教団の一別院となります。また、一九八九(平成元)年にはハワイ開教並びに別院百周年法要が厳修ごんしゅうされました。

## 現況と展望

二〇一六(平成二十八)年、マウイ島に残っていたハワイ最後の砂糖プランテーション耕地が閉鎖となりました。これは、ハワイの経済構造がプランテーション産業から、軍基地・観光産業へと完全に变化したことを象徴するものでした。

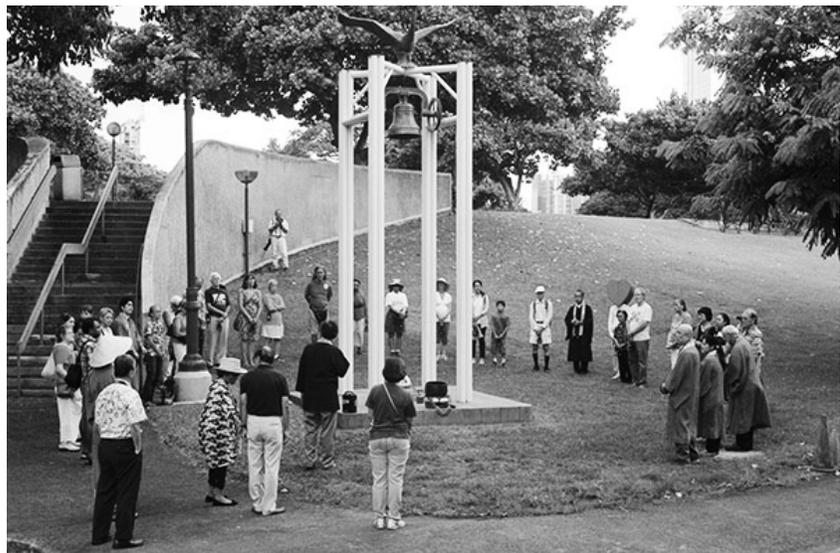
この変化により、オアフ島以外の島の人口流出と高齢化に拍車がかかり、ホノルル、オアフ島への人口過密がもたらされています。また、仕事、収入の面において有利な米本土への若年層の流出が多くみられます。このような状況を踏まえてハワイ別院は新たに次のような取り組みを行っています。

## ・「世代家族との関係を親密に」

オアフ以外の島に住む信徒の高齢化に伴い、その子どもたちが住んでいるオアフ島、ホノルルなどのケアホームに移り住む人が多くなりました。社会貢献の一環としてこのような信徒の方を対象としたケアホーム訪問を行う一方、高齢の信徒の訪問を通じて、その若い家族と連絡を取り合い互いに親しくなっていくことで、次世代の信徒の育成を図っています。また、これは新興住宅街へのアプローチでもあります。

## ・「仏教教育の充実」

毎週日曜に勤められる二回の日本語法要と二回の英語法要をはじめとして、説教だけで終わるのではなく、その後話し合いの時間を設けて、各人により深くみ教えを味わってもらえるように努めています。また、各開教使が得意とする音楽、趣味などを通して、



長崎の平和の鐘

各四回または一ヶ月の連続セミナーを設けてより深くみ教えを伝えていきます。さらには、講習会や通信教育の受講を推奨するなど、積極的に開教使の活動をサポートしていく信徒の人材育成を推進して

## 情報コーナー

います。

また、附属のミッションスクール全生徒三三〇人が週一回、各学年で本堂に参拝するのですが、さらに、六大法要と呼ばれる大きな恒例法要の時に、この三百人が一堂に本堂に参拝するのは圧巻です。このミッションスクールは高い評価を受けており、保育園、幼稚園の入園申込みが多く、空席待ちの状態です。生徒たちは、また近年開設されたハワイ教団設立の米国で初めての仏教系高校パシフィック・ブディスト・アカデミー高校へ継続して、進学してゆきます。本高校は、より多くの若者に仏教を基軸とした教育が提供できるよう、宗派及び多くの方々からのご支援のもと新校舎を建設しており、この八月に完成の予定です。

### ・「社会への貢献」

開かれた本願寺を標榜し、二十年前から「プロジェクト・ダーナ」の名のもと、高齢者の手助け援助の奉仕活動を行い、また、「ファミリープロミス」の名

のもと、ホームレス支援のため宿泊と食事の提供を行っています。その他、低所得の家族のために、昼食を提供するなど、社会への貢献に努めています。

### ・「平和・環境問題」

「インターフェイス」といわれる「宗派を超えた」活動として、他宗教の方々とともに平和について対話を行い、礼拝をし、ともに平和を分かち合う。具体的な例として、広島、長崎の原爆の日にはハワイ別院から「長崎の平和の鐘」がある所までピースウォーク（平和の行進）を開催しています。また、環境問題への取り組みとして「グリーン本願寺」の名

のもと、アースデー（地球の日）を設けて、「もったいないバッグ」を各人が持ち自分を使うコップや皿、箸を持って来てできるだけだけゴミを出さないようにして、地球環境に優しい対策を促進する取り組みを実施しています。

（ハワイ別院輪番 萩尾豊一）



本派本願寺ハワイ別院  
HONPA HONGWANJI HAWAII BETSUIN  
1727 Pali Highway, Honolulu, HI 96813 U.S.A.

ハワイ開教区全般の歴史については、昨年の『宗報』七月号及び八月号に掲載しております。